第25号
湯梨浜学園 SSH NEWS
発行：令和８年10月５日

学校法人湯梨浜学園
湯梨浜学園中学校・高等学校
鳥取県東伯郡湯梨浜町田畑32-1
TEL：0858-48-6810

世界自然遺産で実施したSSHプロジェクトについてご紹介します。

「高ＩＳＳＨ研修プロジェクト」

９月１日（火）～３日（木）の2泊3日の日程で、高校１年生のSSH事業である「海洋環境保全プロジェクト」を実施しました。世界自然遺産にも登録されている沖縄県の西表島と石垣島にて、生徒たちは海洋と森林保全について学びました。このプロジェクトは「環境保全を担う科学的人材の育成」の中核となるもので、県内のプロジェクトを基礎として国内の海洋と森林保全について実践的なスキルを育成することを目的に実施しています。

石垣島では、白保海岸・大浜海岸、および宮良川河口付近のヒルギ林で亜熱帯の自然環境に触れ、サンゴやマングローブなどの調査を行いました。

西表島では広大なマングローブ林が広がる浦内川流域をトレッキングし、多様な生物を調査しました。その後、西表野生生物保護センターを訪問し、絶滅危惧種であるイリオモテヤマネコやカンムリワシなどの希少種の保全活動や外来種対策など地域の取り組みを学びました。

石垣島の国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターでは、日本最大のサンゴ礁域「石西礁湖」が海水温の上昇や生活排水などにより危機的な状況にあること、再生に向けて普及啓発を図ることなどの説明を受けました。

３日間の研修を振り返り、生徒より「今後、サンゴ礁の保護活動や海洋ごみの削減など自分にできることに取り組みたい」といった意欲的な意見が寄せられました。

この度の研修を通じて、気候変動によるさまざまな弊害も、子どもたちの英知によってきっと解決へ導かれていくものと期待します。

写真は、上から
①ジャングル奥にて、ヤシ科のツル性植物であるモダマの観察
②マングローブ(ヒルギ)の種類の同定と根の観察
③ヤエヤママルヤスデ（固有種かつ絶滅危惧種）を観察
④イリオモテヤマネコについて環境省職員からレクチャーを受ける
⑤珊瑚のブリーチングについて環境省職員へ質問